

2025 年度活動結果

2025 年度は、16 の環境目標に取り組み 15 項目で目標を達成しました。

マテリアリティ	環境目標		2025 年度 目標	2025 年度 実績	評価		
事業を通じた社会課題解決	“はたらく” の変革	高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献する ハイエンドスキャナーの販売台数 (fi シリーズ：グローバル販売台数)	 	360,000 台以上	342,369 台	×	
		GHG 排出量 Scope1,2 削減 率	GHG 排出量削減(2015 年度比)	2,076t-CO ₂ 以下 (76%減)	1,940t-CO ₂ (77.9%減)	○	
	脱炭素社会 の実現	 	品質向上、業務効率化	各部門 1 項目以上 (対象 22 部門)	各部門 1 項目以上 (対象 22 部門 すべてで目標達成)	○	
			GHG 排出量 Scope3 削減率	国際エネルギースター プログラム適合	スキャナー製品	適合 100% (2 機種)	適合 100% (3 機種)
		製品環境性能指数の 向上	米国 EPEAT 取得対応	スキャナー製品	適合 100% (2 機種)	適合 100% (2 機種)	○
			情報 KIOSK 端末	ネットワークアライアンス 製品	10.460 以下	10.350	○
				セキュリティ製品	0.611 以下	0.593	○
		製品導入による 顧客先環境貢献量の 向上	情報 KIOSK 端末	762t-CO ₂ 以上	811t-CO ₂	○	
			ネットワークアライアンス 製品	294.1t-CO ₂ 以上	322.1t-CO ₂	○	
			セキュリティ製品	633t-CO ₂ 以上	633.51t-CO ₂	○	
		環境配慮ソリューション による顧客先環境貢献 の向上	ドキュメント	677.6t-CO ₂ 以上	1,034.9t-CO ₂	○	
			ソリューション	4,126 t-CO ₂ 以上	5,678t-CO ₂	○	
	環境配慮ソリューション、サービスの推進	各部門 1 項目以上 (対象 4 部門)	各部門 1 項目以上 (4 部門にて 目標達成)	○			
	循環型社会 の実現	製品の新規資源 使用率	新規資源使用率	スキャナー製品	93.9%以下	92.3%	○
			化石資源由来バージン プラスチックの包装材削 減率(2020 年度比)	スキャナー製品/ キーボード製品	14.5%以上	39.4%	○

お客様の業務効率化に貢献するハイエンドスキャナーの販売

人とデジタルの力で、誰にでも働きやすい環境を作り、お客様の生産性向上・価値創造に貢献することを目指し、高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献するハイエンドスキャナーの販売に取り組みました。

ハイエンドスキャナーの販売台数 (fiシリーズ：グローバル販売台数)	2025年度目標	2025年度実績
		360,000 台以上

GHG 排出量削減

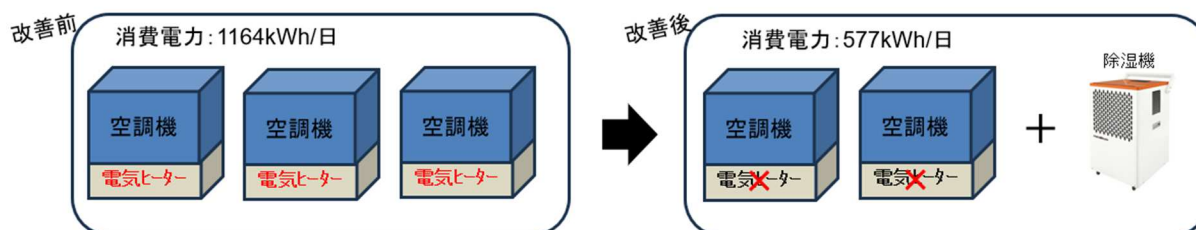
脱炭素社会の実現に向けて、エネルギー消費量(注2)を削減する省エネ活動に取り組んでいます。2025年度は、空調機の除湿機能見直し、空調設備を更新に取り組みました。

(注2)Scope1：ガソリン・軽油(社有車、構内利用)、液化石油ガス(食堂厨房)、都市ガス(冷暖房)、灯油(暖房)
Scope2：購入電力、熱(横浜本社の地域冷暖房)

エネルギー消費量 (CO ₂ 換算値：t-CO ₂)	2025年度目標	2025年度実績
		2,076t-CO ₂ 以下

■空調機の除湿制御見直しによる省エネ

本社の電算機室における空調機の除湿制御は、過冷却後に電気ヒーターによる再熱を行っており、この電気ヒーターが顕熱負荷を高めていました。この電気ヒーターを停止し、新たに除湿機を設置して顕熱を既存空調機、潜熱を除湿機で処理することとしました。電気ヒーター分の顕熱が下がったことで、空調機を3台⇒2台運転にすることができました。これにより、587kWh/日の消費電力削減となり、2025年度は約90,000kWhの省エネ効果がありました。



事業所	本社
改善時期	2025年6月
CO ₂ 削減量	44.6 t-CO ₂

■空調用チラー冷凍機の更新による省エネ

2024年度のB棟に続き、2025年度は老朽化したA棟の空調用チラー冷凍機を2026年1月に更新し、加熱特性に優れた冷媒R32の使用による高い運転効率を実現しました。

2025年度は約27,000kWhの省エネ効果がありました。年間換算では約92,000kWhの省エネ効果を見込んでいます。

事業所	本社
改善時期	2026年1月
CO ₂ 削減量	13.8 t-CO ₂



本社A棟チラー

■ PFU クオリティサービス株式会社の本社移転による電力使用量の削減

PFU クオリティサービスは、2025 年 10 月に本社を座間市へ移転しました。移転先では、屋内照明の LED 化や移転前と比べ効率の良い空調設備が採用されており、電力使用量の削減につながりました。

事業所	PFU クオリティサービス本社
改善時期	2025 年 10 月
省エネ効果	37.7 t-CO ₂



PFU クオリティサービスの本社移転（座間市）

■ 再生可能エネルギーの活用

社会全体の再生可能エネルギーの普及拡大に貢献するとともに、自らの CO₂ 排出量を実質ゼロにする目標を達成するため、再生可能エネルギーの導入を進めています。

2025 年度 再生可能エネルギー使用量	
本社、ProDeS センター	6,531MWh (リコージャパン株式会社が供給する再生可能エネルギー100%の電力を使用)
横浜本社	754MWh (ビル供給電力にて「RE100 TECHNICAL CRITERIA」要件を満たすプランを利用)

品質向上、業務効率化

社内業務においても、IT を活用した業務効率化や品質向上による環境負荷低減を推進し、本業に傾注する環境活動を推進しています。2025 年度は、全部門で本業における品質向上・業務効率化を推進しました。

2025 年度の改善事例

■多品種少量混流生産に対応する出荷検査装置開発による工数削減

多品種少量混流生産での現場では、外観検査は検査手順書に基づき最大 60 箇所を目視確認する必要があり、見逃し防止のために作業者に大きな負担がかかっていました。このため、外観検査の自動化に取り組みました。

自動化にあたっては、他社の検査装置の導入を検討しましたが、多品種に対応するにはあらゆる形状に対応する機構が必要なため設備コストが高額となるうえに、形状にあわせた専門調整や製品ごとのプログラム更新が必要となり、業務効率が低下するという課題がありました。

そこで、自社で検査装置の開発を実施することでこれらの課題を解決し、外観検査の業務効率化を実現しました。



開発した出荷検査装置の外観

独自のポイントストリーミング方式で、プログラムの更新・調整時間の大幅削減

必要な動作をマクロコマンド化し、装置にストリーミングして検査を実行する「独自のポイントストリーミング方式」を採用しました。これにより、プログラムの最小化と多品種にあわせたプログラム変更の更新・調整時間の短縮を実現しました。また、このマクロコマンドを装置のパネル上にテキストで表示することで、作業者がそのまま書き写しできる仕組みとし、プログラム更新に専門知識を必要としない仕組みとしました。

これらにより、検査運用にかかる工数を年間 600 時間削減するとともに、不良流出ゼロを達成しました。

箱形状に着目した座標空間認識アルゴリズムで検査装置の簡素化を実現

箱形状の組み合わせを利用し、検査対象製品を 1 つの箱として認識するアルゴリズムを開発しました。

個々の複雑な形状認識が不要となることで、複雑な動作をする機構が不要となり、検査装置の簡素化を実現しました。これにより大幅な設備投資コストを削減することができました。

環境配慮型製品・ソリューション・サービス

PFU は、「省エネルギー」、「3R 設計(注 3)」、「含有化学物質」などに対応した「環境配慮型製品」を開発し、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を目指しています。2025 年度は、環境性能の優れた製品をより多く提供することでお客様先での環境負荷低減に貢献するため、すべての事業部門において製品の環境性能向上を環境目標に設定して活動に取り組み、環境に配慮した製品開発・提供を推進しました。

また、「業務効率化」「物の消費の削減」「物の移動の削減」「スペースの有効活用」により、お客様業務における省エネ、ペーパーレスなどの環境負荷低減に貢献する環境配慮ソリューション、サービスを提供しています。2025 年度は、各種ソリューション、サービスの開発・出荷やスキャナーを活用したソリューション、サービスの提供拡大など、お客様の業務における環境負荷低減に寄与する活動を推進しました。

2025 年度の主な成果

GHG 排出量 Scope3 の 削減	国際エネルギースター プログラム適合 米国 EPEAT 取得対応	スキャナー 製品	<ul style="list-style-type: none"> 国際エネルギースタープログラムを、新規開発機種で 3 製品適合しました。 米国政府系機関を中心にグリーン購入促進制度で採用されている電子製品環境評価システム EPEAT(Electronic Product Environmental Assessment Tool) を、北米展開予定の新機種について 2 製品、取得しました。
	製品環境性能指数の向上 製品導入による 顧客先環境貢献量の向上	情報 KIOSK 端末	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		ネットワーク アライアンス 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		セキュリティ 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
		ドキュメント/ ソリューション	環境配慮ソリューション導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。

(注 3)3R 設計 : Reduce(発生抑制)・Reuse(再利用)・Recycle(再資源化)を考慮した設計

主な環境配慮型製品

省エネルギー、3 R 設計によりグリーン購入法に適合し、さらに各種環境規格に適合した製品を提供してお客様の業務における環境負荷軽減に貢献します。

スキャナー製品の環境規格適合状況は、当社の公開 HP で公開しています。

業務用スキャナー-fi シリーズ

<https://www.pfu.ricoh.com/fi/eco/index.html>

ScanSnap

<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/eco/>



主な環境配慮ソリューション、サービス

	活動内容	製品
環境に配慮したソリューション、サービスを提供拡大し、顧客先業務における環境負荷低減に寄与	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮ソリューションの開発 ・顧客の業務負荷および環境負荷低減に繋がる事業化テーマの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・fi シリーズ用ソフトウェアおよび DynaEye ・ScanSnap バンドルソフトウェア ・Raptor

■ AI-OCR「DynaEye 11」を機能強化し、伝票や FAX を扱う流通業の DX を支援

流通業界では、効率的な業務管理が必須となっています。ドットプリンターで印字された伝票や、FAX で届いた書類、複雑な明細を含む書類においては、従来の OCR 技術では認識精度が低いため、最終的には手作業による修正が必要となるケースが多く、その結果、業務効率化が進まない状況が続いています。その課題を解決するための一歩として、AI-OCR 機能の精度改善を行い、現場業務の効率化を実現しました。

進化した AI-OCR で低品質な活字に対応

カスレや薄い印字など、低品質な活字も高精度に認識可能になりました。

ドットプリンターで印字された伝票や FAX 注文書など、従来読み取りが難しかった罫線との接触や特殊フォントを含む帳票も正確にデータ化できます。

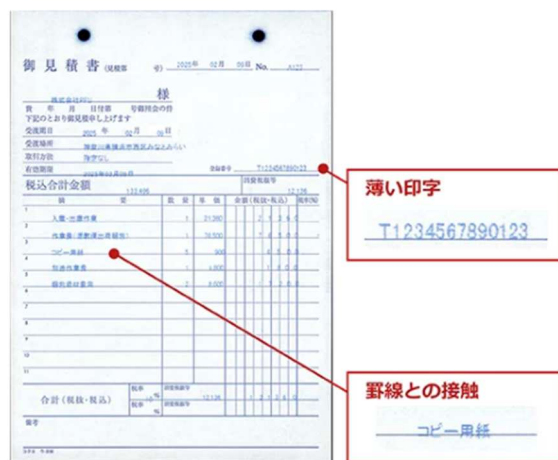
伝票や FAX 注文書を活用する業種が抱えるデータ入力業務を約 70%効率化（注4）し、業務の迅速化と精度向上を両立します。

新機能「生成 AI 連携」で、複雑な明細項目を高精度に読み取り

請求書や注文書などに含まれる複雑な明細項目を高精度に読み取ります。

項目名が複数行にまたがるケースや、一行に複数の情報が混在しているケースでも、明細項目として整理された形式で出力します。

ドットプリンター



後続システムとスムーズに連携！出力データの変換作業を自動化

出力ファイルのカスタマイズを可能にする「出力データ変換」機能を新たに搭載しました。

認識結果を、任意の値への置換など後続システムに最適化された出力形式に自動で変換できます。これにより、データ入力から業務システムへの連携がスムーズになり、業務フローがより一層効率化されます。

（注4）当社にて、サンプル伝票を対象に、データ入力業務時間を手作業と DynaEye を用いて測定した検証結果です。

新規資源削減

PFU では、新規資源使用量の削減に向け、製品への再生材料の使用拡大や包装材における化石資源由来バージンプラスチックの削減に取り組み、環境負荷の削減を進めています。

■ 製品の新規資源使用率の削減

再生プラスチックの活用によりプラスチック廃棄物の削減を進めています。再生材の使用に際しては、耐久性が低下しないように、また色味のばらつきを考慮して使用箇所を工夫しています。

ScanSnap iX2500/iX2400 では、再生プラスチックの使用をすすめ、本体樹脂総重量の 25%(重量比)に使用し、新規資源使用率の削減に貢献しております。

スキャナー製品全体では、新規資源使用率は 25 年度実績で 92.3%となっており、目標を達成しました。

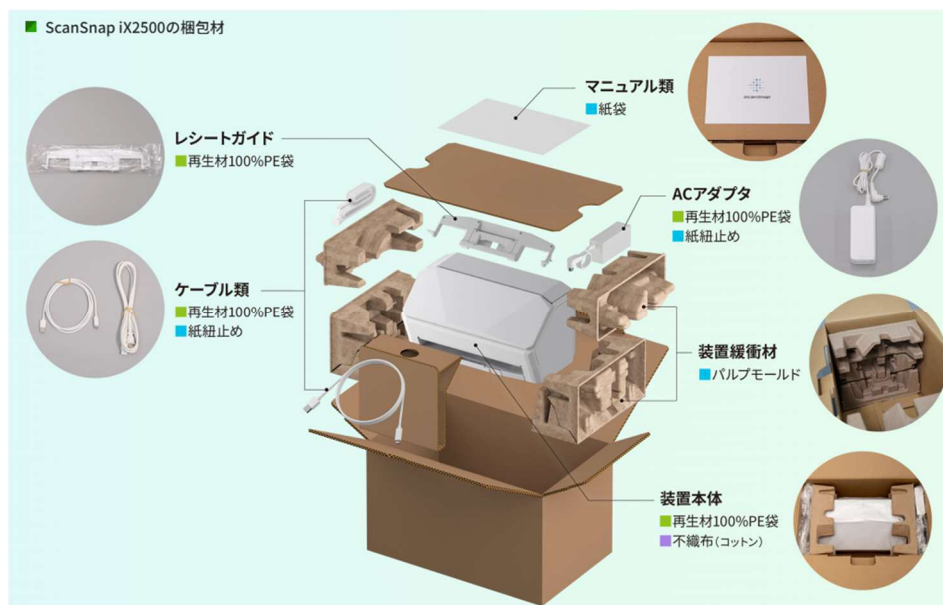


2025 年度の主な成果

新規資源使用率の削減	2025 年度目標	2025 年度実績
	93.9% 以下	92.3%

■ 化石資源由来バージンプラスチックの包装材削減率の向上

製品輸送時に使う緩衝材は、これまで化石資源由来の発泡スチロールを使用していましたが、スキャナー製品では、これをリサイクル可能な紙製包装材に切り替える取り組みを行っています。さらに、ScanSnap iX2500/iX2400 では、装置本体やケーブル類の包装材はプレコンシューマー材の再生プラスチックに切り替え、緩衝材にパルプモールドを使用し、化石資源由来のバージンプラスチックの使用ゼロを実現しました(注 5)。



(注 5)粘着物部品 (ラベル/テープ/保護フィルム)、コーティングを除きます。部材の調達性によっては梱包材の素材が変わる可能性があります。対象製品: ScanSnap iX2500/iX2400

化石資源由来の発泡スチロールを一部機種より段ボール材に転換することで、化石資源由来バージンプラスチックの包装材の使用量を 39.4%削減 (2020 年度比) しています。

2025 年度の主な成果

化石資源由来バージンプラスチックの包装材削減率の向上 (2020 年度比)	2025 年度目標	2025 年度実績
	14.5%以上減	39.4%減